

第2回 土木構造物検討会 議事録

1. 開催日時：平成15年12月5日(金) 13:00～15:00
2. 開催場所：日本電気協会 4階 D会議室
3. 出席者：(順不同, 敬称略)
 - 委員：衣笠主査(東京工業大学), 西副主査(電中研), 金谷幹事(関西電力), 酒井(東京電力), 小林(東北電力), 岩佐(北海道電力), 寺田(北陸電力), 松蔭(中国電力), 岡田(四国電力), 伴(電源開発), 金津(電中研)(計11名)
 - 代理出席：大津(中部電力・中西代理), 玉田(日本原電・富樫代理), 梶田(九州電力・鎌田代理)(計3名)
 - 常時参加者：堀江(関西電力), 高尾(東京電力), 久松(中部電力)(計3名)
 - 欠席委員：なし
 - オブザーバ：宮腰(電中研), 西(原子力安全基盤機構), 安部(前田建設工業)(計3名)
 - 事務局：福原(日本電気協会)(計1名)
4. 配布資料
 - 資料 No.2-1 第1回土木構造物検討会議事録(案)
 - 資料 No.2-2 第7回耐震設計分科会議事録(案)
 - 資料 No.2-3 JEAG4601 改定案 3.4項 津波評価
 - 資料 No.2-4 JEAG4601 第4章 地質・地盤調査 4.1～4.2項
 - 資料 No.2-5 JEAG4601 第4章 地質・地盤調査 4.3項
 - 資料 No.2-6 JEAG4601 第5章 地盤と土木構造物

5. 議事

(1) 検討会出席者の確認及び前回議事録(案)の確認について

本検討会委員総数14名のうち、本日出席者11名, 代理参加者3名であり、代理出席者について、衣笠主査に了承いただいた。また、オブザーバとして3名が参加していることとの紹介があった。

前回議事録(案)について資料 No.2-1 に基づき、事務局より紹介があり、特にコメントなく了承された。なお、JEAG4601 改定案への土木学会規格内容の反映についてはエッセンスを記載するとの当検討会の方針だが、総括検討会等で今後調整との意見が金谷幹事より紹介された。

第7回耐震設計分科会議事録(案)について、事務局より関係箇所の紹介が行われた。

(2) JEAG4601 改定案(3.4項津波評価)の審議について

前回に引き続き、高尾氏(東京電力・常時参加)より題記改定案(3.4項津波評価)コメ

ント反映版（資料 No.2-3）の紹介が行われた。なお、津波評価に関する機器側の対応については未だ調整中であり、結論が出次第報告するとのこと。

審議の結果、本項については本日の提案内容で概ね妥当とするが、JEAG 改定案の書きぶり等が明確になった時点で改めて検討会決議を行うこととなった。

主な質疑は以下のとおり。

本項記載内容は土木学会規格をベースにエッセンスを記載するとあるが、資料 No.2-3 表 3.4.3-5（基準断層モデルの設定方法（遠地津波））の内容等は土木学会で審議されていない事項が含まれている。このような内容は、この場で審議了承されたものとなるか。

そのとおり。

（3）JEAG4601 改定案（第4章 地質・地盤調査 4.1, 4.2 項）の審議について

久松氏（中部電力・常時参加）より題記改定案（4.1 項 地質・地盤調査の基本方針，4.2 項 地質調査）（資料 No.2-3）の紹介が行われた。本件については、持ち帰り検討いただき、12月26日を期限としてコメント集約を行うこととなった。

本日の主な質疑は以下のとおり。

4.2.3 項（敷地内調査 (4) 調査の方法）などにおいて、ボーリング調査実施箇所として『原子炉建屋予定位置』とあり、現行安全審査では原子炉建屋の四隅と中心部に計5本のボーリング調査を行っているが、ボーリング調査の合理性を高めるよう『原子力発電所の地質・地盤に関する安全審査の手引』（原子力安全委員会）に記載されている『原子炉施設予定位置』とし、周辺部も含むボーリング調査を行えるよう修正すべきでは。また、中間貯蔵施設などは JEAG4601 に基づいて地質・地盤調査を行うこととしており、原子炉建屋を中間貯蔵施設と読み替えるのか不明瞭である。

施設の重要性を考慮し、原子炉建屋直下に集中してボーリング調査を行っており、その結果を周辺敷地内調査結果として準用している現状に大きな問題があるとは言い切れない面もある。今後の検討課題とする。

改定案の記載により、第四紀層立地などに対応可能になるか。

最低限の記載は行っている。（試掘坑，地盤分類など）

（4）JEAG4601 改定案（第4章 地質・地盤調査 4.3 項）の審議について

玉田氏（日本原電・常時参加）より題記改定案（4.3 項 地質調査・試験）（資料 No.2-4）の紹介が行われた。本件については、持ち帰り検討いただき、12月26日を期限としてコメント集約を行うこととなった。

本日の主な質疑は以下のとおり。

（4.3.3 安定性検討に必要な地盤物性と試験法 (2) 静的変形特性）において軟岩の静弾性係数，静ポアソン比は室内試験である一方、『クリープ係数』のみ原位置での試験要求となっている。「原則として室内試験だが、クリープ係数の重要性に鑑み特に必要な場合は原位置での試験を求める」との主旨にしてはどうか。

コメントのとおり修正する。

(5) JEAG4601 改定案 (第 5 章 5.1 項 , 5.4 項) の審議について

堀江氏 (関西電力・常時参加) より題記改定案 (5.1 項 地盤と土木構造物 , 5.4 項 屋外重要土木構造物) (資料 No.2-5) の紹介が行われた。本件については、持ち帰り検討いただき、12 月 26 日を期限としてコメント集約を行うこととなった。

本日の主な質疑は以下のとおり。

Appendix にある、(5.4.A.1 各種基準・指針の液状化判定手法について (表)) は掲載が必要か。今後検討する。

(5.4.4 屋外重要土木構造物の詳細設計に用いる解析手法) における『詳細設計』との表記は適切か。他の記載範囲も含めて見直しを検討する。

液状化について、地盤調査で記載してあった部分も含めて、5.4.3 周辺地盤の検討で記載することとしたが、液状化する場合の対策については 5.4.5 安全性評価での記載も考えられるので今後検討する。

(6) その他

次回は 2 月頃を目途に、本日の審議内容コメント反映版について検討を行う予定。

以 上